

# 大学生の論文作成における読み手意識尺度の作成

田中 光

(広島大学大学院教育学研究科)

岸ら (2014) は説明文作成時の読み手への意識を測定する尺度を作成している。しかし、読み手への意識は文章推敲段階で文章作成に影響を与えるとする研究も多くみられる。そこで、文章の推敲段階にも着目して尺度作成を行う。本研究では、大学生にとって身近なレポート作成を取り上げ、書く、推敲の両段階で想定される読み手、それら読み手への配慮・工夫の違いを検討する。

## 方法

**調査参加者** 教育学研究科の大学院生 29 名。

**手続き** 大学で行ったレポート作成をイメージさせ、レポートを書く段階及び推敲段階で、①読み手として想定した人物の特性、②読み手のた

めの配慮、工夫について質問紙に回答させた。

## 結果と考察

読み手についての自由記述に対して、フリーソフト KHCoder を用いたテキストマイニングを行った (Figure 1, Figure 2)。また、読み手への配慮、工夫についての回答を KJ 法で分類した (Table 1)。これらの結果から、書く段階では出題者、推敲段階では評価者としての読み手を意識し、それへの配慮を行ったことが示唆された。今後は、この結果をもとに読み手への意識尺度を作成する。

**引用文献** 岸 学・辻 義人・靱山香奈子 (2014) 説明文産出における「読み手意識尺度」の作成と妥当性の検討 東京学芸大学紀要, 65, 109-111.

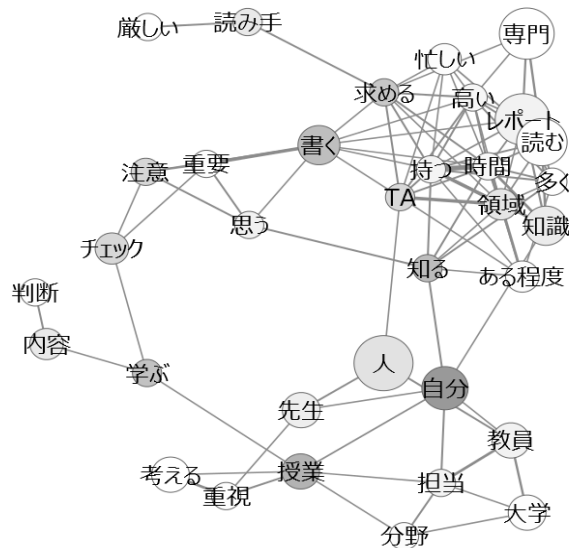


Figure 1. 書く段階で想定する読み手の特性

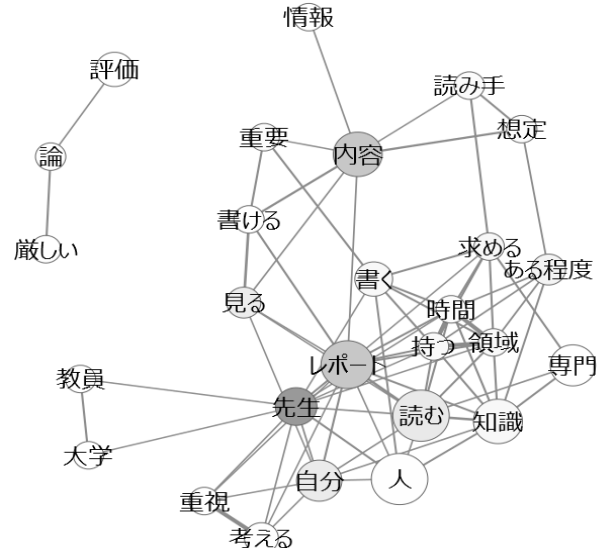


Figure 2. 推敲段階で想定する読み手の特性

Table 1. 各質問に対する回答のKJ法による上位3カテゴリ

書く段階			推敲段階		
カテゴリ	頻度	回答例	カテゴリ	頻度	回答例
想定される読み手の特性	専門家 19	・専門家 ・その分野の専門家	評価者 18	18	・評価者 ・評価する側
	評価者 14	・評価者 ・評価する側である	一般的な読み手 14	14	・誰が読むか ・層の広さ
	一般的な読み手 12	・誰が読むか ・層の広さ	専門家 13	13	・専門家 ・その分野の専門家
読み手への配慮	文章構成に注意する 17	・文章構成がしっかりしている ・結論を先に書く	校閲を行う 18	18	・誤字、脱字がないか ・誤字脱字を見つける
	論理性に気をつける 11	・論理の一貫性 ・ロジックが成立している	論理性に気をつける 12	12	・論理の一貫性 ・論理的であること
	簡潔にする 9	・一文が長くなりすぎない ・簡潔に書く	正しい文法をつかう 9	9	・主語ははっきりしているか ・主述が対応しているか
読み手のための工夫	文章構成に注意する 17	・構成に気を付ける ・結論を始めに書く	読み直す 15	15	・読み返す ・数回読み直す
	わかりやすい表現をする 7	・わかりやすい表現にすること ・一文の意味が通るか	文章構成に注意する 8	8	・内容のまとまりごとに段落をつける ・結論を始めに書く
	簡潔にする 6	・1文を長くしないこと ・簡潔に書く	校閲を行う 6	6	・誤字脱字がないようにチェックする ・句読点を適切な位置に入れる